

津波防災の日講演会の開催報告について

2014年11月13日
石油化学工業協会

国は、平成23年6月24日に「津波対策の推進に関する法律」を制定し、国民の間に広く津波対策についての理解と関心を深めるようにするため11月5日を「津波防災の日」と定めた。

石化協及び石連は、「津波防災の日」に合わせ、津波防災の重要性を認識し、今後の津波対策を含めた総合的な防災対策に万全を期すため、講演会を開催したので報告する。

1. 日時 2014年11月4日(火) 14:00~17:00
2. 場所 日経ホール&カンファレンスルーム セミナールーム2
3. 参加対象 石油化学工業協会及び石油連盟 会員会社
4. 参加者 76名
5. 講演
 - 1) 開会挨拶 石油連盟副会長 環境安全委員会委員長 武藤 潤
(東燃ゼネラル石油株式会社 代表取締役社長)
 - 2) 細井 秀智 JX日鉱日石エネルギー(株)(当時、仙台製油所副所長)
東日本大震災による仙台製油所の状況(被害と復興について)
 - 3) 梶原 泰裕 三菱化学(株)顧問 (当時、鹿島事業所事業所長)
鹿島事業所「被災から再稼働まで」
 - 4) 今村 文彦 東北大学災害科学国際研究所 所長
東日本大震災での津波被害実態と教訓
概要:さまざまな観測データを示しながら、地震の規模や津波が襲ってきた早さなどを説明するとともに、当時、大きな災害は予想できなかったと反省を込めて振り返った。また、地域の復興と防災に向け、過去の伝承を含めた高地への移転、多重防潮林の充実、ただ高い防潮堤を作るだけではなく、津波対策への技術、人材育成などの必要性を強調した。
 - 5) 閉会挨拶 石油化学工業協会 保安衛生委員会委員長代理 綱島 宏
(三井化学(株) 理事 安全・環境企画管理部長)

以上